



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ推進ニュース - 介護ウェーブの "Big Wave" をおこそう! -

署名20万筆達成まで、あと30,674筆!

- 8月末まであと13日 引き続き取り組みを強化しよう! -

8月19日現在の到達 169,326筆

「介護ウェーブTシャツ」を着て宣伝行動 (岡山・倉敷医療生協)



8月9日、倉敷駅にて18人の参加で、署名行動を行いました。新しく作成した「介護ウェーブTシャツ」を着て宣伝しました。大変反応よく、次々と立ち止まり「私の妻もケースワーカーです」と快く署名して下さる方や、熱心に話を聞いてくれる方も多く、1時間で225筆も集まりました。

7月17日、新倉敷駅で玉協から7人の参加で、署名行動を行いました。反応も良く、丁寧に訴えると共感してくれ、30分の行動で、60筆が集まりました。職場でも学習会を行っています。



手作りののぼりを作成し宣伝 (7月17日: 玉協)



(8月9日: 健寿協同・あかね・ふれあい・労組)



介護保険制度の見直し・改善を求める
介護ウェーブのつどい

8月23日(土) 14:00~医療生協会館

記念講演

「崩壊の危機にある介護制度の再生を!!」(仮題)

廣末 利弥氏(社会福祉法人 七野会 理事長)

◇介護事例報告

利用者、家族、ケアマネ、事業所からの発言

◇介護保険制度・報酬に対する要求や提案報告



参加目標は150人です

水島在介では、17事業所を訪問し、案内しています。「ぜひ聞きにいきたい」などの返事も返ってきています。

その他事業所も積極的に事業所訪問を行って参加を呼び掛けています。取り組んだ反応をぜひ事務局まで。

★事例ファイル episode no.13

「在宅生活が困難な重度認知症高齢者が、安心して生活できる場がない」

○性別：男性 ○年齢：88歳 ○家族構成：独居 ○要介護度：要介護3
○現在利用している介護サービス：老健

【介護サービスの具体的な利用状況について】

3年前より、長男夫婦との電話での会話が不自由になり、病院を受診したところ認知症と診断を受ける。その後、ガンの摘出手術を受け、入退院を繰り返し、時間・場所の見当識障害、短期記憶障害、物盗られ妄想等の行動が見られ、老健の認知症専門棟に入所し生活を送られている。

【本人の身体状況、具体的な困難や生活上の支障について】

今後の生活の場として、特養での生活を希望するも、特養から「もう少し状態が悪くなって、動かなくなってから」と返答。現在、老健での生活でありながら、在宅生活困難、特養入所も断られる等、今後の生活の方向性が無い。もしくは、受け入れ先が無くなっている状態。

【制度に対する問題意識や、改善が必要と考えられる点】

今後、認知症高齢者が増加する中、今回の事例のように、重度認知症高齢者の生活の場が限られており、更に在宅生活が困難、施設での生活を希望される利用者・家族の要望にも応えられない状況です。認知症高齢者が安心して生活できる環境の整備が必要です。

★事例ファイル episode no.14

「どこまで在宅生活を続けることができるか、一人暮らしのお年寄り」

○性別：男性 ○年齢：68歳 ○家族構成：独居 ○要介護度：要支援2
○現在利用している介護サービス：訪問介護

【介護サービスの具体的な利用状況について】

独居（アパート）のため毎日ヘルパーが入り調理や掃除、入浴援助により、在宅生活がなんとか維持されている。（週2回だけ午前午後とも、あとは午前のみ） デイサービスなど促すが本人は拒否。

【本人の身体状況、具体的な困難や生活上の支障について】

パーキンソン症候群と下肢筋力低下、杖歩行をしているが転倒を繰り返している。独居のため毎日ヘルパーが入り調理や掃除、入浴援助により、在宅生活がなんとか維持されている。記憶力低下もあり、服薬管理（糖尿病もあり）が出来ず、朝1回処方（ヘルパーが確認）となっている。長男とは絶縁状態、兄弟も遠方でほとんど支援はない。もともと振動病認定患者であり休業保障給付で生活していたが、昨年、症状固定で給付が無くなり月5万円に満たない年金だけでは到底生活できなくなってきた。今年に入り生活保護の申請を行い5月より保護を受けられるようになった。大家にも事情を話し相談した結果、家賃を1万円以上値引きいただけることになり（35000円）、住宅扶助32000円と生活費からの持ち出し3000円で転居せず、暮らすことが出来ている。今後、病院や介護度の進行に伴い家族の支援がない中、どこまで在宅生活を続けることが出来るか本人も介護する側も不安な思いでいる。

【制度に対する問題意識や、改善が必要と考えられる点】

生活保護を受けることが出来たが、生活扶助が52000円程度（住宅扶助などは別）で、人間らしい文化的な最低限度の生活ができるのか疑問である。本人は病気に対する不安、将来への不安、経済的な困窮、一人ぼっちの孤独感と戦いながら生活しており、介護にかかわる私たちの支援と合わせて将来にわたって安心して暮らせる社会保障の制度が求められる。

お問い合わせは、「介護ウェブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp